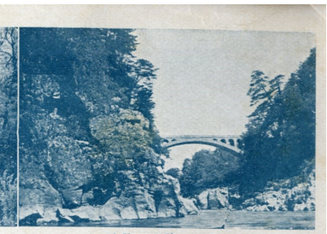
飯田を中心とせる下伊那名所案内


天下ノ勝地天龍峡

天龍峡 飯田町の南方二里、川路龍江の兩村を繋ぐ姑射橋を中心として兩岸絶壁の間を天龍川の奔流する所を云ふ。弘化四年坂谷朗廬來遊して賛を選んで岩に刻した。大正元年英國コンノート殿下の御來訪により一躍そのタ天下に普ねく、爾來屢々各宮殿下の御來遊により、明治十五年日下部鳴鶴が來て橋に姑射橋と名付け、十二里の間、奇岩怪巒を縫ふて流れは縦横に曲折し、或は急湍となり或は深淵となる。其の間の山容水態は各所に天工の極致を盡くして居る。而しながら天龍峡の奇勝は只此所のみでなく、門島から遠州鹿島に下る舟賞に天工の美しさを讃ふて流れは緩やかにして清れる持たせやすい。

南アルプス 甲信の國境に高く聳ゆる大山塊の總稱で、赤石山脈と云ふ。東駒山系、東岳、白峰山系、赤石山系に區分せられ、其の内三千米以上の高峰は前面に並立する北岳、間ノ岳、農鳥岳（以上白峰三山）、聖岳、赤石岳、荒川岳、悪沢岳、塩見岳、北岳、赤石岳、以上比較的に開けて居る。北アルプスは中央アルプスに比して開拓の遅れた地で、其の道路は殆んど古時の面影を保ち、千古生物の繁殖の水成岩より成る。雪鳥、獣も鹿等の棲息地として居る。

大平ノ峠 飯田町から約十丁、北方丘上の郊戸神社には應神天皇を祀る。園内は芝園にして、市民の四時行樂の休憩地である。元治元年十一月武田耕雲齋の挙ゆる水戸浪士の一隊が、北原稲雄の案内にて間道を通過した際の出発地で、其の遺跡には大平の碑がある。西に風越山を仰ぎ、東は天龍川を隔て、上下伊那二郡の首都で交治年間坂西氏築城以來の古い歴史を持つて居る。西に數四千、人口約二萬人、街衢は整然と碁盤目に區劃せられ、電車は町の西方を貫通して交通に至便である。諸官衙諸中等學校悉く備はり上水道も完備し、周囲に廣き農村を控へて商業殷盛を極め機織の工業も赤盛である。近く隣接の上飯田町と合併して市制が布かれる事になつて居る。

飯田町 本名は不詳、此所に宇宙の中心と稱する大平峠の頂上に、高さ二尺の石碑が建つて居る。碑の表面に「中心」と刻し、裏面に「大平峠」と刻してある。此所に立つて四方を眺めると、北は中央アルプスの連峰、南は遠く天龍峡の渓谷を見下ろし、東は遠く南アルプスの連峰、西は遠く中央アルプスの連峰を望む。

元善光寺 本名は不詳、此所に宇宙の中心と稱する大平峠の頂上に、高さ二尺の石碑が建つて居る。碑の表面に「中心」と刻し、裏面に「大平峠」と刻してある。此所に立つて四方を眺めると、北は中央アルプスの連峰、南は遠く天龍峡の渓谷を見下ろし、東は遠く南アルプスの連峰、西は遠く中央アルプスの連峰を望む。

大宮公園 飯田町の南方約八丁、佛へ云ふ水泳場の上に、鎌倉に歸る足利持氏の、二人の遺子が、此所に隠れ住んだ。今日の公園の中に、二人の遺子の墓がある。

お不二様の墓 飯田町長源寺の境内に在る。主家を思ふ一念は凝つて瀧主の愛妾若山を刺し、斬に處せられた然女山口不二子の墓である。共に春をも待たずして消ゆるはかなさ。

ねり祭り 大宮神社には「ねり祭り」と稱する式年祭があつて七年目毎に、大祭が行はれる。四月初旬の三日間晝夜に亘り、全町擧つて悉く此れに参加する。餘興には各物の大名行列、獅子舞ひ等限りなく其の豪華なる事他に比類がない。

壇 飯田町の南方約八丁、佛へ云ふ水泳場の上に、鎌倉に歸る足利持氏の、二人の遺子が、此所に隠れ住んだ。今日の公園の中に、二人の遺子の墓がある。

垣 飯田町の南方約八丁、佛へ云ふ水泳場の上に、鎌倉に歸る足利持氏の、二人の遺子が、此所に隠れ住んだ。今日の公園の中に、二人の遺子の墓がある。

木賊山 國原の南方一帯の小山で、昔は木賊の名所であつた。謡曲『木賊刈』は此處に材料を得て作つたものである。

富士見臺 海抜千六百米、御坂峠の北に連る。冬は山岳スキー場としてスキーヤーの憧る、スローブである。

文永寺 亀山天皇の文永元年、知久信貞が勅命に依りて創建した文元明王を祀る。古の十二坊は今日其の跡を止めないが、弘安六年知久敦幸が奈良の石工官原行長に命じて造らせた五輪の石塔は國寶に指定せられ、その上其れを覆ふ石は全國に唯一の物として特に注目せられて居る。

鹿 赤石山脈の麓、弘法大師が杖を立てた所とも云ひ、又、幼能顕著と稱せられる、飯田町の四方牢里、四方を囲む峰智峡の底に浸々たる碧水を湛へた大プール。松川の清流を四時浴客多く、四時行楽の別天地である。

風越峡 飯田町の西方牢里、四方を囲む峰智峡の底に浸々たる碧水を湛へた大プール。松川の清流を控へて新緑に見る高原、四時行楽の別天地である。

富士見臺高原 海抜千六百米、御坂峠の北に連る。冬は山岳スキー場としてスキーヤーの憧る、スローブである。

阿智神社 延喜式の官道であつた所に、天八意思兼命及び御子天表春命を祀る。延喜式内信濃四十座の一つである。

大山田神社 里名を西とも云ふ、式内社で大國主命、勝神天皇、鎮西八郎爲朝の一子大島次郎爲家が治承年間に建てた。

宗良親王遺跡 南アルプスの登山口大河原に在る。後三年後醍醐天皇の皇子信濃宮良親王が香坂高宗等の忠勤により、四方の官軍を指揮して回天の偉業を企て給ひし所である。

尹良親王墓 宇宮ケ平の所、附近に御陵が祀られて居る。

治部坂のツツジ 浪合より約半里の治部坂はツ、ジの名所で、蛇峠山の裾野廣義一里の間、六月中旬の花盛りには爛漫と咲き亂れて天地悉く赤く、観客四方より集まり來る。冬はスキー場として絶好のスロープである。

木賊山 國原の南方一帯の小山で、昔は木賊の名所であつた。謡曲『木賊刈』は此處に材料を得て作つたものである。

文七元結 飯田の元結は、芝の日蓋町に店を出し盛に販路を擴張した。實勝の頃櫻井文七と云ふ者江戸に出で